

職場における交通安全指導 Part.16

新人運転者の事故特性と安全指導

今回から4回にわたり、運転者を下記の各層別に区分して、その区分別にみた事故発生の特徴とその原因および安全指導のポイントを掲載します。

新人運転者の事故特性と安全指導
若年運転者の事故特性と安全指導
中高齢運転者の事故特性と安全指導
女性運転者の事故特性と安全指導

もが事故の当事者になる可能性がある」という意識を高め、安全運転に努めるよう指導してください。

新人運転者の事故特性と安全指導

1. 交通事故発生実態の周知徹底を

次の表は平成15年の一年間に全国で発生した交通事故(人身事故)の発生状況を示したものです。

平成15年 全国の交通事故発生状況

| 年\区分 | 発生件数 | 死亡人数 | 傷害人数 |
|--------|----------|--------|------------|
| 平成15年 | 947,408件 | 7,702人 | 1,180,168人 |
| 対前年増減数 | +11,577件 | -624人 | +13,913人 |

プロドライバーに「年間に発生する交通事故による負傷者は、どの位いると思いますか?」と質問しますと、一番多い回答が、死亡人数の3~5倍、もっと多く答える方でも、死亡の10倍が限度で、それでも実態数値約153倍からは遥かに下回っています。

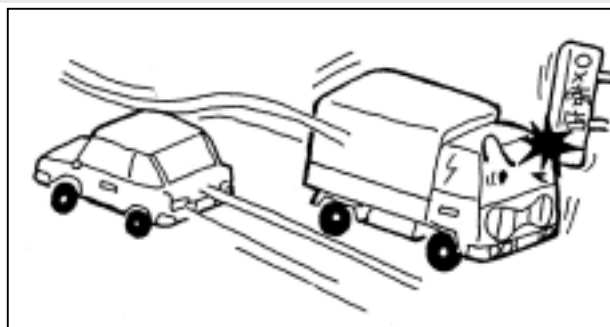
しかも対物事故の発生率は対人事事故の5倍といわれており、単純計算しますとその発生件数は実に473万7千件にものぼります。

こういった交通事故の発生実態とドライバーの交通事故発生に対する意識を比べてみますと、多くのドライバーが実態とかけ離れた過少評価をしていることがわかります。

そこで、まず交通事故の発生実態を十分に伝え、ドライバーの交通事故に対する認識とのズレを気付かせ、「交通事故は決して他人事ではなく、誰し

2. 車の死角、車幅感覚を身につけさせる

事例1: A運転者(入社歴2か月)は、食品配送業務で、2トンの保冷車を運転し、道幅の狭い商店街を走行中、対向の乗用車が来たので、道路の左側に寄ろうとハンドルを切ったところ、自車の左上部が商店の看板に接触し破損させた。



(指導のポイント)

新人運転者の多くは運転経験が浅く、貨物自動車の特性、例えば車高や車幅、車体の長さが完全に身に付いておらず、こうしたことを要因として商店の看板やテントを破損したり、狭い道路での対向車との擦れ違い時での接触や、駐車車両に接触といった事故は少なくありません。

従って、普通免許所持者でトラックの乗務経験のない新人運転者については、車にはいろいろな死角があることを実際に使用する車を使って体験させたり、車を実際に走らせて車幅感覚等を身に付けさせることが大切です。

なお、保有車両の状況によりますが、いきなり4ト

ン車や2トンのロングボディー車に乗務させず、最初は小型貨物車で最低でも半年～1年は経験を積ませ、段階的に上のランクに登用することなども安全対策上必要なことです。

3. 配送先の道路行程等を添乗指導する

事例2：B運転者(入社歴3か月)は、配送先である目標の交差点を一つ間違えて行き過ぎたことに気づき、方向転換しようと慌ててバックしたところ、後続車両に衝突した。



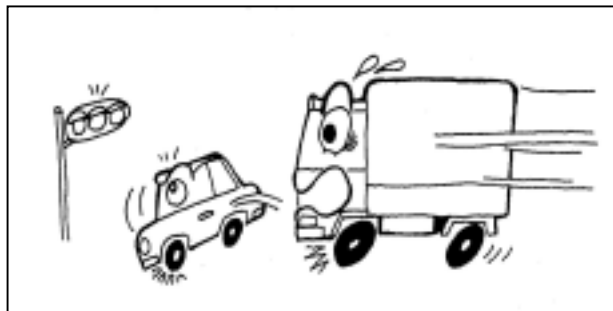
(指導のポイント)

新人運転者には道路状況や地理不案内な人が多いので、配送先の所在や道路行程を覚えるまでは、ベテラン運転者に添乗させ、運航経路や目標となる建造物、また渋滞箇所、事故の多発場所を指導し、本人が地理に明るくなるまでは決して一人で乗務させないことです。

また、事例のように道を間違えて行き過ぎた場合の方向転換の適切な処置方法についても、慌ててバックすることのないよう、平素から安全な方向転換の方法、手順についてマニュアル等を作成し指導しておくことです。

4. 急ぎの心理の危険性を理解させる

事例3：C運転者(入社歴6か月)は、信号機のある交差点にさしかかったところ、信号機が青から黄色に変わったが、先行車がそのまま進行すると思い追従したところ、前車が停止したため慌てて急ブレーキを踏んだが間に合わず追突した。



(指導のポイント)

積荷を「安全・確実・迅速」に運ぶということに関して、新人運転者の場合は気持ちに余裕がないため、“迅速”のみを優先しがちです。交通渋滞等により到着予定が遅れますと、その遅れた時間を取り返そうとして交差点を黄色信号でも平気で通過したり、車間距離を極端に詰めたり、また必要以上にスピードを出す傾向があり、このため追突事故を起こすケースが少なくありません。

“急ぎの心理”の危険性を理解させることは当然のことですが、前もって渋滞を見越した早めの出発を指示したり、指定時間内にどうしても間に合わない場合の連絡方法等の対応を指導しておくことも大切なことです。

5. その他の指導ポイント

運行前点検、清掃の実施

なかなか実行されにくい運行前点検と車両の清掃習慣を身につけさせる。

路面や車重、タイヤによって変わる停止距離を指導

特に車は積載した重量が重くなればなるほど制動距離が長くなることを指導する。

バック時の留意点

営業車の場合、バック時に意外と事故が発生しやすいことを理解させ、バック時における運転のポイントを指導する。また、構内や駐車場内の事故防止についても留意する。

事故措置

万一事故を起こした場合の措置要領を周知徹底させる。